

# 「大深度地下使用認可申請に向けた東京外かく環状道路（関越～東名）の説明会」 質疑応答の概要

（平成25年9月3日（火）練馬区立下石神井小学校 体育館）

※本資料は平成25年9月3日（火）練馬区立下石神井小学校 体育館で開催された「大深度地下使用認可申請に向けた東京外かく環状道路（関越～東名）の説明会」での質疑応答の概要を国土交通省東京外かく環状国道事務所が取りまとめたものです。

## 質問者

- ・ 大規模地震への備えやゲリラ豪雨対策は設計に盛り込まれているのか。

## 回答者

（国）

- ・ 大規模地震の検討については、トンネル標準示方書、シールドトンネル設計施工指針等の基準に基づき検討しており、阪神・淡路大震災や東日本大震災規模の地震があっても耐えうる構造の検討を進めている。
- ・ ゲリラ豪雨については、道路周辺からトンネル内に雨水が流れ込まないようにトンネル入口付近の壁を嵩上げするなどの対策を行う。

## 質問者

- ・ 地上部街路（外環ノ2）の計画との兼ね合いは。外環があれば外環ノ2は不要なのでは。

## 回答者

（国）

- ・ 外環ノ2については、東京都が区市毎にその必要性やあり方等を広く意見を聞きながら検討を進めている。

## 質問者

- ・ 質疑応答の時間が短いのではないかと。それで地域の理解を得られるのか。

## 回答者

（国）

- ・ 今後行うオープンハウスやフリーダイヤル等でもご質問等をお受けしたい。

## 質問者

- ・ 地下水への影響（石神井公園の三宝寺池など）についてどう考えているか。

## 回答者

（国）

- ・ 地下水の動きについては、深層地下水の水圧の低下量は約 1kPa～15kPa という予測結果であり、年間水圧変動幅内であるため、地下水流への影響はわずかであると考えている。
- ・ 施工中と施工後においても地下水の水位変動を、適宜環境影響評価書に基づきモニタリングを行う予定であり、何らかの著しい影響が出た場合は詳細な調査をし、対策を検討する予定である。

#### 質問者

- ・ 換気所からは全 16km 分の排気ガスが排出されることと思われるが、換気所へ低濃度脱硝装置を付けるなど、大気汚染の防止のための措置の検討状況はどうなっているのか。

#### 回答者

(国)

- ・ 大泉 JCT に設置予定の換気所は、北行き本線の中央 JCT～大泉 JCT 部分の排気のみを担う。環境影響評価上は、低濃度脱硝装置までは付けなくても対応可能と考えているが、引き続き検討する。

#### 質問者

- ・ 地質調査の結果は公表されているのか。

#### 回答者

(国)

- ・ 地質調査結果は、環境影響評価書等の中で公表している。

#### 質問者

- ・ 地元町会の反対など、青梅街道 IC の状況をどう考えているのか。またハーフインターになった経緯は。

#### 回答者

(国)

- ・ 町会が反対されているのは認識している。引き続きご理解ご協力を求めていく次第。昭和 41 年の都市計画ではフルインターで計画されていたが、平成 13 年頃からの地域の方や沿線自治体等と話し合いを続けて、フルインターからハーフインターと方向性が打ち出された。その上で、平成 19 年の都市計画変更に至ったものである。

#### 質問者

- ・ トンネル内で事故が起きた際の地上への避難方法はどうなっているのか。

#### 回答者

(国)

- ・ 地上への避難方法については、横連絡坑や滑り台で安全な空間に避難したあと、ランプ等を利用して地上に避難できる構造としている。なお、滑り台を利用して道路下に避難する方法は、東京

湾アクアラインでも採用されている。

**質問者**

- ・ 青梅街道 I C 予定地では、町会の拒否により大深度地下使用認可申請のための井戸調査が行われていないはずであるが調査をしたのか。

**回答者**

(国)

- ・ 公簿の確認及び区役所への井戸等の届出の有無を確認するなど、出来る範囲で調査を実施している。

**質問者**

- ・ 今回の会場は外環が計画されている地域から遠く、交通の便も悪い。どのような理由で会場を選定したのか。

**回答者**

(国)

- ・ 沿線区域においてなるべく等間隔になるよう選定し、会場の空き状況等を確認して選定している。

以 上